

土成中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標 学力向上検討委員会構成

- 大志の実現に向けて自ら学ぶ生徒の育成
- 家庭における学習習慣の確立による学力の定着

学力向上推進員
塩田 直也

委員 校長:瀧川靖治 教頭:十川道雄 教務主任:小崎朱代
1年主任:小林文芳 2年主任:桑村裕佳 3年主任:坂東大輔
人権教育主事, 生徒指導主事, 道徳教育推進教師,
研修主任, 保健主事, 特別支援教育コーディネーター
学力向上学年担当:(1年)河野実輝,(2年)佐藤凌太,(3年)塩田直也

校長

瀧川 靖治

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や試験結果の分析による到達度の見極め等から取組み状況を把握する

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や英単語の読み書き, 計算などの基礎的な課題に対して意欲的に取り組める生徒が多い。 ●学力に二極化が見られる。苦手意識が強い生徒ほど学習意欲が低く, 家庭学習の習慣をつけさせることに課題がある。	・読書をする習慣が身についている。 ・言語に対する関心, 理解を深め, 基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができる。 ・家庭学習に着実に取り組むことができる。	・学級文庫の充実, 朝の読書の時間の確保, 図書館利用の推奨により, 読書活動を促す。 ・確認のための小テストを計画的, 継続的に実施する。 ・生活記録の指導を通して, 言語能力の向上を図る。	・図書委員会の活動をさらに充実させ, 読書活動への意欲を向上させる。 ・それぞれの生徒の学力の定着度を測るため, 漢字検定・数学検定・英語検定などの資格試験への挑戦を促す。	・意欲的に授業に取り組み, 基礎・基本を身につけようとする生徒が多く見られた。 ・図書委員会を中心に, 読書活動を促し, 活性化することができた。 ・家庭学習の充実を図る指導を続け, 多くの生徒が習慣化できた。	・分かりやすい授業作りを目指した職員研修を実施し, 今以上に意欲的に学習に取り組む生徒を増やしていく。 ・図書館の開館や学級文庫の設置などを継続して行い, 読書の習慣化につながる呼びかけを続ける。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを伝えたり, 友達の意見をしっかりと聞こうとしたりする意欲のある生徒が多い。 ●相手の表現を理解して, 自分の考えや思いを, 筋道を立てて表現することに課題がある。	・目的に応じて, 根拠や理由を明らかにしながら, 自分の考えを相手に分かりやすく表現することができる。 ・ペア活動やグループ活動を通して, 友達の意見を取り入れながら課題を解決しようとする事ができる。	・学習活動の中で自分の考えを筋道を立てて説明したり, 文章に書くことで表現したりする機会を意図的に設ける。 ・ICTを活用しながら, ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れた授業を実施する。	・対話型の活動をうまく取り入れて授業を進められている。タブレットを用いて, さらにコミュニケーション能力を向上させられる授業作りを展開する。	・授業ではペア活動やグループ活動の機会を多く設け, 他者との意見交換を通して学び合うことができた。 ・社会の授業ではテーマについての意見を理由をつけて発表し, 学級全体で問題解決していく活動を行った。	・板書のまとめや意見交換のため, タブレットを積極的に活用し, 自己表現が苦手な生徒等を支援する。 ・主体的・対話的な授業を展開し, 自分とは違った意見を取り入れながら思考力や表現力を高める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全体的に落ち着いて学習に取り組むことができる。しなければならないことに取り組める生徒が多い。 ●難しいことや苦手なことに対して, 粘り強く取り組んで克服することに課題がある。	・自らの課題に自ら気づき, 目標を持って主体的に取り組むことができる。	・授業の初めに本時の目標を示すとともに終わりに振り返りの時間をもつことで, 分かりやすい授業を実践する。 ・将来の自己実現につなげるため, 自主学習の大切さを伝え, 家庭学習の習慣化を図る。	・継続して家庭学習を行うことの重要性を説く意味指導と同時に, 「自主勉強ノート」の活用の仕方を指導し, 家庭学習の充実を図る。	・将来の自己実現に向けて, 家庭学習の意味指導や具体的な活用の仕方を指導し, 主体的に学ぶ生徒の育成に取り組んだ。全体の44%が自主勉強を受賞し, 家庭学習を習慣化することができた。	・落ち着いて授業に取り組むために2分前着席を推進する。 ・家庭学習がさらに充実するように, 引き続き指導を継続し, 自主勉強を受賞する生徒を前年度よりも増やす。

令和5年度 学力向上ロードマップ

